

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 大熊勝明

JR東労組

本部OB会

ニュース

No. 164 2011年11月 発行

退職者連合が「年金問題」で民主党に緊急申し入れを行う!

誰のための政権交代か? 民主党の姿勢を問う!

退職者連合(阿部保吉会長)は、去る9月30日に民主党の興石東幹事長に対して「年金に関する緊急申し入れ」を行ないました。朝日・毎日新聞等によれば「社会保障と税の一体改革」の議論の中で、政府筋より一定の考えが出され、年金の給付について「かつて自民政権時代に凍結した物価下落分の年金据え置き分を解除して、三年間で年金額を2.5%削減する。その後、毎年マクロスライドで0.9%削減、また賃金が下落した場合は年金額をスライドして減額する」などという、われわれ年金生活者から見たら、とんでもない議論がされようとしているのです。これは、自民党時代の特例水準や物価スライド特例措置を一切廃止することになり、年金生活者にとっては絶対に容認できない改悪内容です。

2011年9月30日

民主党 幹事長
興石 東 様

日本高齢・退職者団体連合
会長 阿部 保 吉

年金に関する緊急申し入れ

日夜国政の発展と国民生活向上のためご尽力されている貴職に深く敬意を表します。

新聞報道によれば、民主党政府は公的年金の減額に向けた検討作業が本格化したとのこと。この問題は、かつて自民政権時代に物価変動による年金引き下げの議論の際、年金生活者の生活実態から政治判断で年金額を据え置いた経緯を持つ事項です。

自民政権時代に措置した事項を民主党政権下で改悪することは断じて理解できません。

退職者連合としては、我々が支持する民主党が本気で考えているとは思われませんし、先日の9月15日の全国高齢者集会では民主党最高顧問渡部恒三代議員が「皆さんの年金を減らすようなことは絶対にしない」と明言されたばかりですので、我々の杞憂とは思いますが、この際、党としての正式見解を再確認させていただきたいと思えます。

ご多忙の折かとは存じますが、至急会見の場を設

我々は一昨年、「国民生活が第一」の政策を掲げた民主党を応援し、熾烈な選挙闘争を闘って画期的な政権交代を実現させました。政権交代には国民の大きな期待がかかり、民主党がどんな政治を行なうのか、注視してきました。しかし鳩山政権では普天間問題でつまづき、菅政権では昨夏の参院選挙で唐突な消費税値上げ発言でねじれ国会に追い込まれ、国民に約束したマニフェストは次々に後退を余儀なく

されています。そればかりか菅政権から野田政権に引き継がれたのは、「社会保障と税の一体改革」であり、財務省主導の増税と負担増を前面に押し出した「財政改革」オンリーの路線なのです。一体、誰のための政権交代か? 民主党の姿勢を問わなければなりません。本部OB会も、高齢者の生活に直結する年金支給の減額には絶対反対です。今こそ、民主党政権の高齢弱者切り捨てに声を出し、退職者連合の取り組みをしっかり支えよう。

OB声の広場

OB会旗、初陣、堂々と高々と首都圏に翻る!

◇「原発反対!子供を守ろう!」「原発なくそう!地球を守ろう!」東京・明治公園に六万人が結集した。シュプレヒコール・デモンストレーションで都心を揺るがした。その一角にJR東労組1200名、うちOB会員160名が結集した。「今闘わずして、いつ闘うのだ」「ここに参加して誇りに思う」。既成の政党・組織の欺瞞に飽き足らない人々が、自らの意思で闘うことを明らかにした。

◇金と利権に群がり、人間と共存できない放射能と安全神話をばら撒き、地元住民の「頼」を札束で叩き原発を建設した原発推進論者、「政界・自民党」「財界・電力会社」「科・化学者」達それらを許してきた「メディア」「労働界・連合」に対する闘いに向けて決起した歴史的出発点である。

◇福島第一原発の付近は「死の町」「ゴーストタウン」と言わずして何と云うのか。映画「猿の惑星」では核戦争で地球が破壊し、地中に埋もれた「自由の女神」像。アメリカの古謡「故郷の魔家」で唄われる「♪…咲く花鳴く鳥そよ風…住む人は絶えてなし♪」が現実化しようとしているのだ。

◇危険地域から遠く離れた「安全な場所」で、懲りない面々が金と利権に加えて核武装が可能な潜在能力を保持するために、「原発が必要」という御託を並べているが、もう一度と騙されない。いちいち論破することはない。私達の回答はハッキリしている。「爺から孫への贈物・核と原発のない社会を創る事だ。」

◇集会で俳優の山本太郎さんは、腹の底から叫んでいた。「本当に命を守りたい!生きていきたい」と。

◇今年も二〇一一年のノーベル賞が話題になっているが、奇しくも今からちょうど二〇〇年前の一九一一年、キュリー夫人がノーベル化学賞を受賞している。ウラン鉱石から放射線が出ているのを発見した。研究の間、放射能は彼女の身体を侵し続けていた。白内障に侵されて視力は落ち、六十六歳、白血病で亡くなった。世界最初の被曝死であったと言える。彼女は「放射能が人間と共存できないこと」を、「放射能が人間の身体・生命を破壊すること」を、身をもって科学的に証明したのかもしれない。

横浜地本OB会(H・J)

理不尽な会社・権力の攻撃に現退一丸となった反撃を!

八王子地本OB会主催 秋レク大交流会／報告

余興も飛び出し、百余名が大いに盛り上がる

八王子地本OB会 副会長 味原 進

八王子地本OB会は、7月7日を恒例の交流レク開催日に決め、一昨年から実施してきました。今年も3・11東日本大震災以降、種々の行事のスケジュールが延び延びになり、交流レクも延期を余儀なくされました。

延期された交流レクは9月22日、甲斐大和「大和自然学校」にて組合員・OB会員100余名の参加者を得て、盛大に開催されました。

当日は、前日に日本列島に大きな被害をもたらした台風15号が過ぎ去り「台風一過」の晴天で、日頃から真面目に取り組んできた地本OB会の活動を祝ってくれているようでした。



交流レクは甲府支部OB会の主幹で取り組まれ、鮎・猪肉・茸汁等、甲府支部ならではの料理の持ち成しを朝から準備してくれていました。

他支部参加者は開始時間まで近くの神社を見学するなど、散策をしながら交流レクの開始を待ちました。

交流レクは12時から中澤副会長の司会で始まり、植松準備委員長の歓迎の挨拶の後、地本OB会・片山会長、甲府支部OB会

郷田会長、本部OB会・本田副会長、地本

シニア会・水上会長らからそれぞれに挨拶を受け、特に『自然と人間社』加藤顧問から原発問題やJR東会社の職場活動の規制、美世志会の完全無罪を勝ち取るための闘い等にふれた鋭い問題提起がありました。

全参加者で乾杯した後、12個の各アールには各支部別のOB会員、シニア・ミドル、ヤングの組合員がそれぞれに集い、酒が喉を潤し、旨い料理が会話の潤滑油になって、今の会社と組合の現状についての議論が熱く語られて行きました。



レクに特別参加してくれた津軽三味線・民謡グループの「玄和会」の皆さんが登場し、津軽三味線・津軽じよんから節や武田節等の民謡を披露

してくれ、飲んだ後のひと時を楽しむことが出来ました。参加者全員で記念撮影を行い、美世志会の完全無罪・JR東会社の職場活動規制の反撃・脱原発の闘いを現退一丸で取り組むことを確認して、大和自然学校を後にしました。

最後に2か月間にわたり準備会を重ね、成功に向け取り組んでくれた甲府支部OB会と玄和会の皆さんにお礼を申し上げます。

●新潟地本OB会／第一五回定期総会報告

会員拡大の成果を踏まえ 脱原発など諸課題に取り組もう!

新潟地本OB会 事務局長 清田 完二

当初、七月末開催予定であった新潟地本OB会第15回定期総会には福島・新潟豪雨により二ヶ月の延期を余儀なくされ、9月24日、一五名の委員・支部OB担当者が集い、盛大に開催されました。開会冒頭、初代委員長・故松崎明さん、故角岸元委員長と東日本大震災で亡くなられた皆様の御霊に黙祷を捧げました。

渡部OB会長は、①この一年間で九五名の会員を拡大し、地本OB会員は六九〇名を超えた。②福島原発事故で「人類と原発は共存できない」とことが明確となった。OB会も「脱原発・自然エネルギーへの政策転換に向けた行動に立ち上がろう。③えん罪・浦和電車区事件の最高裁要請行動を新潟も取り組む。④新潟県連合・高齢者協議会に正式加盟(現協力会員)しよう、と四つの課題を提起しました。

来賓には本部OB会から田中副会長・伊藤事務局長、新潟地本・稲垣執行委員長、JR新潟支社・勤労課長、佐藤新潟県公議員からそれぞれに挨拶を頂きました。

本部OB会・伊藤事務局長は「先輩諸氏が相次いで亡くなられ、辛い半年間であった。東日本大震災は私達にも「思いやりの心」を教えてくれた。われわれの時代で原発を廃めさせよう。」と呼び掛けました。

議事は経過報告・会計報告・会計監査報告・予算案・「柏崎菟野原発の停止を求める特別決議」を一括提案した後、質疑に入り、原発問題、エルダー問題に意見が集中しました。特に原発について「OBになってから自分の価値観が問われ、原発関連の本を購入、何か行動しようとする自らの発意で九・一九集会に参加してきた」との発言を受けた後、提案された議案は一括承認されました。最後に渡部会長の団結ガンバローで総会の第一部を終了しました。

第二部の懇親会は、会場を変えて行われ、一年に一度の仲間同士の再会とあつて終始和やかに楽しい時間を過ごし、OB会の親睦を深めました。

- 会長 渡部良司(長岡) 副会長 山崎次男(新潟)
- 副会長 野崎忠夫(直江津) 事務局長 清田完二(新潟)
- 副会長 眼崎洋(長岡) 事務次長 大塚九(新潟)

検修と構内外注化に思う

横濱地本・国府津電車センターOB 居城正昭

私のエルダー職場 紹介します

私は、2010年8月1日、鎌倉車両センターで退職と同時に再雇用エルダー社員制度により、JRから運輸サービス国府津営業所に出向しました。この再雇用制度は、昔、私が国鉄改革で新潟から広域異動により大船電車区(現在大船運輸区)に来た時のことを少しだけ思い出すものになりました。

あの時は「仕事を守る」「生活と雇用を守る」そして「組織を守る」と議論し、数年してからワークシェアリングの議論を創り出したことが懐かしく思い出されます。しかし、再雇用による出向先の事業所は、プロパーやパート、他労組からのエルダーが混在して働き、日常の会話は遊びや趣味が中心で空しく感じるものが多くあります。

この事業所は、車両清掃を主体として、構内の出入区と入換作業、転削を含めた検修作業が主な業務です。しかし、夏は汗で汚れ、ほこりまみれになっても日勤作業の人達が使用するシャワー設備も無いので、顔や手を水道水で洗って帰るのみで不衛生だと感じております。

構内は比較的広く、北群線は洗い場や交換庫を入れて12番線あり、電留線(全部15両対応)は出入区線を入れて21番線まであり、鎌倉車両センターから比べたら広さが際立ちます。しかし夜になると、入区してくる電車で埋め尽くされます。

構内作業の職場では、入換作業等、比較的仲良くやっています。特に夕食づくりは、昼休み時間に有志が当番制でやっている関係から、食事中にいろいろ話が出て、交流を深める良い場所となっています。

職場では、すでに一部外注化が実施されていますが、最近、新建屋が建てられたり、耐震工事が行われたり、いま提案されている外注化に向けた会社の姿勢が何となく肌で感じ取れ、着々と設備が整ってきている感じがします。また、この十一月からは233系の新車投入で、211系や231系が順次姿を消して行く予定です。

最後に検修と構内外注化についてですが、本社・本部間で交渉中だと聞いていますが、本体に残る者と若年出向する者さらにエルダー社員との関係で、同じ組合員でありながら対立するような関係にならないよう充分な議論をして欲しいと思っています。

